

ふるさとふちゅう

再発見

【第38回】 府中町で体験、四国お遍路（23）正観寺（3）

広島市白島町にあった正観寺が府中町に移転するきっかけは昭和20（1945）年8月6日の原爆被災です。白島地区は建物が全焼しました。江戸時代には隆盛を誇った正観寺ですが昭和20年頃には住職は不在で、近くの宝勝院の住職が兼務しており、戦後の復興時には正観寺は放置されたままの状況が当分続きました。昭和24（1949）年になり広島市の復興都市計画による区画整理が始まります。現住職の祖父小出真浄氏は正観寺の総代を務めていたため、祖父を中心に話が進められます。小出氏は元広島藩士で、当時は士族です。先祖は浅野氏とともに紀州から広島入りしたと伝えられ、現在地付近の郡代を務めていたと言われています。この辺りは江戸時代には温品川（府中大川）河口の湿地で広島藩の狩場があり、それを守っていたとのこと。区画整理を前に総代であった真浄氏は2つの事を決断します。一つは、所有者不在として整理対象となる正観寺の移転であり、もう一つは、将来的に正観寺を維持していくために自らが僧籍を

得ることです。まず、真浄氏が所有していた安芸郡府中町の小畠山（現在地）に本堂などを建立します。これは現在の本堂より上に建てられた木造の本堂です。昭和33（1958）年に完成し、翌昭和34年に正式に移転しました。次に当時勤めていた広島市役所を退職し、福王寺（現広島市安佐北区可部）で修行を行い、僧籍を取得します。その子（現住職の父）も同様に福王寺で修行し僧籍を取得しました。その後当初の木造本堂が経年により老朽化が進んだため、また山の頂上にある本堂への急傾斜の参道を登る不便解消のため、平成9（1997）年に現在の本堂・檀信徒会館を現在地に建立しました。



旧本堂（正観寺ホームページより）

府中町文化財保護審議会委員

菅 信博

正しいごみ出しにご協力を

府中町環境センター ☎286-3266

安全なごみ収集は正しい分別から！

ごみ収集車から煙が出ました！

昨年12月15日の収集中に、普通ごみの中に混入されたモバイルバッテリーにより収集車から煙が出る事案が発生しました。収集車の火災が発生すると、多額の修理代がかかるだけでなく収集が遅れたり、周辺の方々や交通に迷惑が及ぶ恐れがありますので、普通ごみに発火の恐れのあるものは混ぜないでください。

【充電式電池】販売店に回収を依頼（または（一社）JBRCへ問い合わせ）

【電池が入った家電製品】電池を外してから大型ごみへ（外せないものはそのまま大型ごみへ）



「家庭ごみの正しい出し方」

令和6年度版（赤色）は、3月1日発行の広報ふちゅうと一緒に配布します。

祝日等の収集

2/12(月)
振替休日

【普通ごみ】(月)・休収集地区
【有価物】(月)収集地区
【大型ごみ】八幡四丁目、八幡四丁目の一部、浜田一丁目

2/23(金)
天皇誕生日

【普通ごみ】(火)・金収集地区
【有価物】(金)収集地区

広告

広告